特別研修

月例研究会　議事録（　１０　月）

２００９年度第　５　回

報告題名　内モンゴルにおける持続的酪農経営の展開条件に関する研究	
報告者　斯欽孟和 **(所属分野)**　農業経営経済学分野	**日時**　１０月２９日　午後3時～ **場所**　第８講義室
座長　水木	**議事録担当者**　宮里

出席者

長谷部、木谷、安江、米倉、川島、伊藤、石井、齋藤、水澤、小山田、韓、スチン、ソ、八木、柳瀬、宮本、カルナ、マヌルン、神浦、福田、水木、宮里、渡邊、北脇、泉井、遠藤、月僧、今野、齊藤、鈴木、滝田、中村、永井、水野、山下

報告要旨

中国では、近年になって生活水準の上昇にともない、牛乳・乳製品の消費が急増している。特に都市部のミルクの消費量が著しく増加している。これを支えているのが内モンゴル自治区である。そして、こうした内モンゴルの酪農業の発展は、牧草や餌として栽培しているトウモロコシに依存していることである。

内モンゴル全体から見ると1970年を越えて人口の急激増加するともない、1990年代中旬から家畜頭数や耕地面積が増えている。特に2000年に入ると家畜頭数の急増が続いてきた。

本報告では内モンゴル中部のフフホト市とバオトウ市近郊における耕地依存型の大小規模酪農家への聞き取り調査から得られたデータを使用し、経営実態や課題を明らかにする。その上で最近、世界中に注目している、内モンゴル生態環境問題を解決する家族経営方法へ提言することで報告したい。

質疑・応答

八木：スライドの 11 番で、調査地区の概要ではそれぞれどのように規定しているのか。たとえば、近隣都市との距離と書いてあるが、フフホト市とバオトウ市は両方大きな都市なのか。

スチン：そうです。ここでは調査地区の全体的な概要を書いたものです。この中のトゥムド地区とはフフホト市の中にある地区です。その土地の面積と人口、頭数、栽培作物について記載しました。この地区の選定理由は、フフホト市が 2006 年から「中国乳都」に指定されており、この周辺の農家は酪農経営を行っています。

八木：経営方式としてここに書いてある内容ではわかりにくい。まず公有地の意味がわからない。

スチン：公有土地とは、「土地請負」制度により農民が背負った土地以外の共同で利用する土地のことです。

八木：スライド 12 に記載されてある農家 6 と農家 7 を大規模農家と見てよいのか。

スチン：そうです。農家 1 から農家 5 までは、一般的な農家として選び、残り 2 つは大規模農家として選びました。フフホト市の都市部から遠いトゥムド地区では、小規模酪農家が多い。平均家畜頭数は 5 頭から 6 頭です。

八木：その小規模農家と大規模農家において、スライド 19 のような問題があるということか。

スチン：そうです。大規模農家と比較して、小規模農家は飼料を栽培するための農地面積も小さく、飼料管理能力も低い。また設備投資にかける資金も十分ではないため、全体的に乳牛飼養管理能力が低い。以上のことから、今後小規模から大規模に発展することはないと思います。